すいた市民しんぶん
緊急インタビュー

緊急インタビュー

ハシズムを斬る

吹田市自治都市研究所所長 **二宮 厚美**（神戸大学名誉教授）に聞く

編集部　本日は吹田自治都市研究所所長の、二宮厚美神戸大学名誉教授にお越しいただきました。二宮さんは、最近「新自由主義からの脱出」という著書を上梓され、グローバル化の中での民主党政権の終焉や、新福祉国家づくりへの展望などを語っておられますが、それに加えて「大阪・橋下派の本質と問題点」についても言及されています。橋下維新の会、いわゆるハシズムですが、なぜこれほど人気が高まっているのでしょうか？

二宮　要因は2つあります。まず1つ目が橋下氏一流のパフォーマンスが、ある程度の大阪府民の心をとらえているということ。

新自由主義とは…

経済への政府の介入を縮小し「小さな政府」を実現、規制緩和等を通じて従来政府が担っていた機能を市場に任せること。イギリスのサッチャー政権、アメリカのレーガン政権がその代表。「官から民へ」というスローガンを唱えて登場した小泉政権も、新自由主義改革を推進した。結果的には、社会保障費の抑制や労働者派遣法の改悪などで貧富の格差が広がった。

例えば「大阪都構想」や「維新八策」など、政策の中身が支持されているわけではなくて、テレビなどで報道される彼一流のアピール力に、支持が集まっています。各種世論調査でも、支持の理由が「橋下さんの行動力に期待する」というもの。でも大阪都構想の中身について、府民が詳しく知っているかというと、そうでもない。彼は大衆動員型の政治家で、少なくない府民が、内容も吟味できないまま、パフォーマンスに幻惑されている、というのが一点目です。

次に、大阪にはすでに橋下氏の考え方、いわゆるハシズムを受け入れる基盤が出来上がっていたということ。大阪の一般大衆が貧困化して、その貧困化した層が、彼のパフォーマンスに拍手を送った。橋下氏の手法というのは、徹底的に既得権を叩く。一般にポピュリズムとは、絶えず敵を作って、その敵と戦う姿勢を貫くことで、大衆の人気を得る、というものですが、橋下氏の場合、敵は既得権と、その「権益を享受している人々」です。

――世論調査でも、橋下氏は相対的に貧困な若年層や非正規労働者の支持を集めているようです。

二宮　21世紀になって、日本は小泉改革、つまり新自由主義の下でルールなき資本主義に陥り、雇用保障も、権利保障もない世の中になりました。生存競争の修羅場に多くの人々が放り出される中で、失業者から見れば、雇用保障された人々は「既得権者」に見える。派遣労働者に比べて、正規労働者は既得権の持ち主。そして公務員は解雇されることはない。民間と比べると、身分保障は公務員の特権なんだと。

彼が知事に就任した時、「大阪府は破産会社、民間会社なら従業員は解雇される。府の職員は解雇されないので、賃金カットは当然だ」という理屈で、大阪府職員の人件費を大幅にカットしました。官民の間では、公務員対民間労働者、そして民間会社の中では、非正規雇用と正規雇用を対立させていったのです。

そして公務員の中でも、とりわけ労働組合が「既得権の巣窟」（笑）になっていると、労組を攻撃しました。確かに大阪市役所の巨大労組には、人事介入や市役所ぐるみ選挙など様々な問題がありました。その不祥事をネタにして、本来守られるべき、労働者の団結権などの労働基本権を徹底的に叩きつぶしてしまおうということです。これは学校教育でも同じです。府立高校と私立高校を比較して、府立高校は定員割れしても教師はクビにならないし、その高校はつぶれない。これは私立に比べて一種の既得権ではないか、と。

この論法でいけば、あらゆるところに格差はあるので、彼は常に、「少し上のところ」「身分保障された人々」を叩くことができる。そしてその攻撃の先頭に立つのは政治家・橋下である、というプロパガンダで人気を保ってきたのです。

――橋下氏はこの方法で弱者同士を戦わせているわけですね。本来、団結すべき労働者同士が、彼によって分断されているように感じます。全国的に見て、この大阪で「橋下人気」が高まっていった背景は何でしょうか？

二宮　大阪は全国に比べて貧困層が多いのです。大阪の非正規労働者の割合は、45％です。全国平均は35％なので10ポイントも高い。非正規労働者の多くは、「既得権から疎外された」と感じますから、既得権益を叩いてくれる橋下氏を応援したくなるのでしょう。全国的に見て、大阪は失業率ワースト5の中に入っていて、7％くらい。平均は5％弱です。生活保護受給者も就学援助受給家庭も全

神戸大学名誉教授
二宮 厚美さん